

四季彩便り

2013・晩春

発行人 光が丘堂 裕子
 サニ四季彩堂
 漢方酒見 裕子
 (092)927-2693

花信風

いつもなら四月上旬に見ごろを迎えるはずの桜。今年はずでにたくさんの花びらが雪のように舞い降りてきました。その淡い紅がしだいに色褪せ萎れてゆくさまに「いのち」を重ね見る思いでした。

ねがはくは花のしたにて春死なむ
 そのきさらぎの望月の頃

西行

今年の入学式は新一年生と同じく初々しい若葉を纏った桜が出迎えてくれることでしょう。

春ふかみ枝もゆるがで散る花は
 風のとがにはあらぬなるべし

二十四節気の小寒から穀雨までの各候に咲く花を知らせてくれる風のことを「二十四番花信風」というのだそうです。

- 小寒―梅・山茶(椿)・水仙
- 大寒―瑞香(沈丁花)・蘭・山礬(灰の木)
- 立春―迎春(黄梅)・桜桃(ゆすらうめ)・望春(こぶし)
- 雨水―菜(菜の花)・杏(あんず)・李(すもも)
- 啓蟄―桃・山吹・薔薇
- 春分―海棠・梨・木蓮
- 清明―桐・麦・柳
- 穀雨―牡丹・茶藤(ときんいばら)・棟(せんだん)

近くの畑では早くも麦の若穂が始め、傍には菜の花、そして上空にはヒバリのさえずり…季節が風とともに動いてゆくのを感じます。

簡単中医学講座

ドライシンドローム(乾燥症候群)とは？

こんな症状ありませんか？

乾燥部位	症状	現代医学の対処法
目 (ドライアイ)	チカチカする、まばたきしづらい、疲れやすい、かすむ…など	保湿成分配合目薬
口 (ドライマウス)	唾液が少ない、口の中がネバネバする、お茶や飴を手放せない、パサパサした食べ物が食べづらい…など	口腔保湿クリーム ジェル
気道	鼻や喉の違和感、いがらっぽい、空咳、痰が切れにくい…など	咳止め薬、去痰剤、うがい薬など
皮膚 (ドライスキン)	かさかさ、粉っぽい、がさがさ、かゆみ…など	保湿軟膏 保湿クリーム
大腸	便が硬く出にくい、コロコロした便が出る、便秘…など	便秘薬

これらの症状はすべて体の潤い不足が原因ですが、単に水分補給すれば解消されるわけではありません。

中国医学では、体に必要な潤いを保つ「腎」と、

体のすみずみまで潤いを行き渡らせる「肺」の働きを高める漢方薬で根本から治していきます。



折々の薬草

ヨモギ (生薬名 艾葉)

春になると山野や道端のいたる所で目にするキク科の多年草で、草餅の材料として馴染み深い野草ですね。

子ども頃、転んで膝を擦りむくと、川の水で洗ったヨモギの葉を石の上ですりつぶし、傷口に当てて止血したものです。

葉を乾燥して綿毛だけ集めたものがお灸に使う「艾」で、よく燃えるから「善燃草」とか、四方によく繁茂するから「四方草」という説があります。

私の郷里では「フツ」と呼んでいました。「フツ」は「打つ」に通じ、この草で体を打つと邪気を打つ(払う)と考えられ、厄除けの草として用いられたのでしよう。

実際、ヨモギの葉を軽く揉んで香りを出すと、虫よけの効果があります。アイヌの人々の間では地上に最初に誕生した植物として崇め、ヨモギで作った刀や槍はどんな魔物をも倒すことができると信じられていたのだそうです。

面白いことに沖縄では「フーチバ(打つ葉に通じる?)」と呼び、野菜として市場で売られているのだとか。

薬用には、まだ花がつかない時期の葉を、鼻血・婦人の不正出血・流産防止・胃腸の弱り・高血圧・神経痛・冷え性・湿疹などなど幅広く利用します。

餅にする灸にするよもぎ摘みにけり 子規

